

## 相生のカニ調査

あいおいカニカニ調査隊 カニカニブラザーズ

### はじめに

相生の干潟には、どんなカニが住んでいるのだろうか、という子ども達の興味心から、平成27年9月より始めた調査ですが、継続して調査を続けていることにより、カニ達の季節の行動が分かってきました。また、それぞれの性質や食性、住家など、子ども達から見たカニについての記録も取りまとめていきました。調査は干潟のみならず、川の上流、海岸、そしてカキに付着し生活しているカニについても行い、本を見ながら捕獲したカニの特定をしたりしています。



結果、現在、45種(うち1種については、未確定)ものカニの発見に至りました。その内、兵庫県の絶滅危惧種に指定されている個体は、21種にもおよびます。そのほかにも、地元の漁師などの話によると、生息しているのに捕獲出来ていないカニが居ることや、大型のカニの死骸を拾ったりと兵庫県の小さな湾などに、50種を超すカニが生息していると思われまます。

今後さらに調査をし、子ども達の観察から得られた情報や、写真などを基に、図鑑として発表し、日本全国に発信できるよう、取り組んでいこうと活動を続けています。

### 調査方法

調査期間：平成28年1月から平成28年12月の間

調査場所：山間部にある川、干潟、海岸線、養殖カキ、湾沖の無人島

調査方法：①現地で見つけたカニを捕獲、バケツに入れ、種別調査を行った。

②捕獲の際に、砂地、土、泥地、岩地のいずれの場所で捕獲したのかを記録した。

③調査時に、気温を測定、記録するようにした。(干潟の出現潮位については、調査員が潮位表にて確認)

④カニ達の写真の撮影

⑤抱卵の有無の確認

調査員：小学3年生(隊長)、小学2年生(ハンター)



ハマガニ



クロベンケイガニ



ケフサイソガニ

## 結果

45種のカニを発見することができた。(下記のとおり)

調査場所	発見した種類数	左記のうち兵庫県 絶滅危惧種	主な種類
川の上流	1	—	サワガニ科
干潟、砂浜	23	18	ベンケイガニ科、モクズガニ科、 スナガニ科、コメツキガニ科、 マメコブシガニ科
海岸	12	2	イワガニ科、オウギガニ科
カキ礁	9	1	オウギガニ科、ケブカガニ科、 クモガニ科、モクズガニ科、 ベンケイガニ科 (1種未確定)
合計	45	21	

## まとめと考察

昨年の調査では、干潟のカニたちが、冬はいつごろまで活動できるのかについて、現地にて調査をしてきましたが、その後も引き続き調査したことにより、春の活動開始時期がある程度分かり、そのことにより、1年間の活動スケジュールがある程度分かってきました。

また、合わせて抱卵した個体を観察したことにより、どのカニが、いつごろから卵を持つのか、ということもある程度把握できました。

その他にも、カニ達の様々な生活が見えてきました。

- ①巣穴について 泥や土部分に巣穴を掘る物、障害物や石垣を利用し巣穴を掘らない物がいる。
- ②交尾活動について 陸上で交尾活動を行うもの(ベンケイガニ科の仲間は陸上での交尾活動が確認できた)、オスがウェービング(爪を振るなどし、メスにアピールする行動)をし、巣穴にメスを誘うタイプのもは、陸上で交尾活動を確認することが出来なかった。結果として、巣穴の中で交尾行動を行うのではないかと推察した。ヤマトオサガニについては、巣穴から、オス・メスパアで出てくるのを何度となく観察することが出来ました。
- ③食性について ベンケイガニ科の仲間や、モクズガニ科の仲間は、干潟の周りにある、落ち葉や草、魚の死骸、スルメ(与えたもの)、仲間を襲って食べる、泥などをついばむなど、雑食性であることが分かってきました。
- ④自切について 自切しているカニを見つける度に観察をしたところ、決まった節から自切をすることが分かってきました。
- ⑤抱卵個体の調査について 平成28年3月21日に、干潟にてハマガニの抱卵個体を発見したのを始まりとして、毎月9月までいろんなカニの抱卵姿を観察することができました。ただし、4月～9月までの間は、常に多くのカニが卵を持っている感じがすることから、抱卵するのは、年に1回だけでなく、数回するのではないかと推察しました。
- ⑥その他 特定のカニ(マメコブシガニ)について、動きが遅く、容易に捕まえられることから、干潟の海岸線にいる個体すべて(117匹)捕獲したところ、オス97匹、メス20匹となり、オス・メスの比率が偏った結果となった。別の日に、違った干潟で同様の調査をしたところ、捕獲数93匹、オス78匹、メス15匹と、同様の結果となりました。少なくとも、地表に居る個体は、オスの比率が非常に高いと思われます。

干潟のみならず、相生湾先端にある、自然海岸にて海岸線に生息するカニの調査、また、11月を過ぎ、干潟のカニ達がほぼ見られなくなってくると、相生湾で行われている「養殖カキ」に付着して生活しているカニ達の調査についても実施しました。

カキに付着したカニについては、相生湾の海岸でも確認できた個体もいれば、海岸部では全く確認できなかった個体もあつたり、干潟周辺を好むタイプのカニだと思っていたものが、カキに付着して生活していることが分かってきました。今後さらに調査を続けていきたいと思ひます。

その他、湾沖にある無人島についても調査を行つており、その結果、湾内いずれの場所にも生息しているカニが居ることも分かってきました。

また、抱卵個体の観察について、昨年の経験から、干潟のカニよりも、海岸線やカキに付着しているカニの方が、抱卵するのが早いように感じられるので、正確な情報を集めるためにも、引き続き調査をしていきます。

今後の調査の目標ですが、①これまでの調査を継続して行ふ、②近隣市に生息しているのに、相生には居ないことになっている個体を探す、③カニを飼育し、脱皮の様子を観察する、④カニが食べている泥や砂の中には、どんなものがあるのか調査をする、⑤抱卵個体を見つけられなかった種の抱卵個体を探す、⑥巣穴の中を観察する、⑦漁協とタイアップして相生湾海底のカニ調査を実施する、⑧干潟のカニの幼生を観察する、こととしたい。